



Mutsu General Hospital

むつ総合病院



研修医日記

作成者：久保田 実怜（2年次）

こんにちは。今年も残りわずかとなりました。年が明けたばかりだと思っていたのにあっという間です。

研修医の2年間は様々な科をローテートし基本的な知識や手技を身につけます。その中で自分が進む科を長く選択することができるので、麻酔科を全部で4か月間回らせてもらいました。

進む科を決めてからは、将来の自分の姿を以前よりも思い浮かべることができ、それに向けて必要なものにたくさん気づかされました。勉強はもちろんのこと、どういう人間になりたいか、真剣に考えさせられます。

むつの麻酔科を支える坂井先生、青木先生。合わせて120歳を超えるこのお二人が私の最初の師匠になりました。麻酔科の先生は本当に十人十色な考えをもっていて、同じ状況に遭遇しても対処は人それぞれのように思います。お二人のそれぞれの考えを少しでも吸収するために、たぶんうるさいと思われながらも研修させてもらいました。一緒に麻酔をかけることはもう無いのかもしれないと思うととても寂しいです。

お二人に教えてもらったことは麻酔の他に、「しめのラーメン」と「赤ワイン」です。今後とも末永くよろしくお願いします。



※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。